１）を展開溶媒として、約15㎝展開した後、薄層板を風乾し、さらに、105℃で約10分間乾燥する。これにバニリン・硫酸・エタノール発色試液を均等に噴霧した後、105℃で約10分間加熱するとき、試料溶液及び標準液から得た主なスポットは、青紫色を呈し、これらのRf値は等しい。

② 本品10㎎（9.5～10.4㎎）を量り、メタノール（９→10）50mLを加え、20分間かき混ぜた後、ろ過する。さらに、この液をメンブランフィルター（0.45μm）を用いてろ過し、ろ液を試料溶液とする。別に、常用標準ナラシン５㎎（4.5～5.4㎎）を量り、メタノール（９→10）250mLを加えて溶かし、標準液とする。試料溶液及び標準液各200μLにつき、次の操作条件で液体クロマトグラフ法により試験を行うとき、試料溶液及び標準液から得たナラシンＡのピークに係る保持時間は一致する。

操作条件

装置：移動相及び発色液送液用の二つのポンプ、試料導入部、カラム、反応槽、検出器及び記録装置からなり、カラム及び反応槽は、恒温に保たれるものを用いる。

検出器：可視吸光光度計（測定波長：520nm）

カラム：内径4.6㎜、長さ250㎜のステンレス管に粒径５μmの液体クロマトグラフ用オクタデシルシリル化シリカゲルを充填する。

カラム温度：25℃付近の一定温度

反応槽（反応コイル）：内径約0.5㎜、長さ約5.0ｍの管

反応槽温度：98℃付近の一定温度

移動相：メタノール・水・酢酸混液（940：60：１）

発色液：メタノール950mLと硫酸20mLを混和し、これにバニリン30ｇ(29.5～30.4ｇ）を溶かす。

移動相流量：毎分約0.65mL

発色液流量：毎分約0.65mL

カラムの選定：常用標準モネンシン及び常用標準ナラシン５㎎（4.5～5.4㎎）ずつを量り、メタノール（９→10）を加えて溶かし、250mLとする。この溶液200μLにつき、上記の条件で操作するとき、モネンシンＡ、ナラシンＡの順に溶出し、その分離度が3.0以上のものを用いる。

面積測定範囲：ナラシンＡの保持時間の約２倍

純度試験

① 鉛 本品1.0ｇ（0.95～1.04ｇ）を量り、約200℃で２時間炭化した後、約250℃から１時間当たり50℃の昇温速度で約450℃まで加熱し、この温度を２時間保持して灰化する。放冷した後、硝酸５mLを加え、時計皿で覆い、砂浴上で加熱し、時計皿を除き、ほとんど乾固する。放冷した後、塩酸（１→６）約25mLを加え、10分間緩やかに加熱する。放冷した後、100mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加えて100mLとし、30秒以内にろ過し、試料溶液とする。別に、原子吸光光度用鉛標準液1.0mLを量り、100mLの全量フラスコに入れ、塩酸（１→６）約25mLを加え、更に水を標線まで加えて100mLとし、標準液とする。試料溶液及び標準液につき、各30mLを量り、リン酸８mL、ヨウ化カリウム溶液（６→